

恵庭市総合計画審議会第1回専門部会

(産業・観光・まちづくり部会) 議事録 (要旨)

日時	令和7年4月18日(金) 14:00~16:00
場所	恵庭市役所 201 会議室
出席者	小林 祐一 委員 (公募)
	熊野 稔 委員 (公募)
	内倉 真裕美 委員 (花のまちづくり推進会議)
	落合 信也 委員 (恵庭市商店会連合会)
	島田 圭一 委員 (恵庭観光協会)
議事	・審議事項
	・第6期総合計画の基本構想(素案)について
	(1) 基本目標5について
	(2) 基本目標6について

流れ	内容
開会	●企画振興部次長 開会のあいさつ
	●部会長 本日は第1回産業・観光・まちづくり部会です。基本目標5の産業・観光分野と基本目標6のまちづくり分野の審議を行います。皆様の忌憚のないご意見をお願いいたします。本日の会議は約2時間を予定しています。それでは、事務局より資料説明をお願いします。
審議内容の説明	●事務局 本専門部会では、総合計画の基本目標、目指すまちの姿、取り組みの方向性、協働の取り組み、政策についてご検討いただきます。 特に、基本目標の表現が目指す姿を包括的に示しているか、目指す姿や取り組みの方向性が課題に対応できているか、市民との協働による推進が可能か、政策に過不足がないかという点についてご意見をいただきたいと思いますと考えております。

	政策、施策、事業は階層構造になっており、例えば「住民の暮らしを守る」という政策に対し、「地域防犯体制の確立」などが施策、さらに具体的な活動が事業となります。 本日の主要な議論は、基本目標や目指すまちの姿といった文言の修正です。現状と課題を踏まえ、目指すまちの姿とのギャップを埋めるための取り組みの方向性や施策について、配布資料を参照にご意見をお願いいたします。議論は抽象的になりがちですが、具体的な事業レベルでのご意見も歓迎いたします。本日は、これらの議論を踏まえ、総合計画に政策・施策を反映させることを目的としています。
素案審議	●部会長 事務局からの説明でご質問はありますか？
	●副部会長 都市計画マスタープランや立地適正化計画と、総合計画との関連性をうまく位置づけておくことが必要。柏陽地区の複合施設もこれから動くということで、具体的な名称を入れる入れないは別としても、そういう文言なども大事と思います。 施策の方に入ってくると思うが、道の駅「はなふる」は全国的にも非常に価値の高い道の駅で認識されて、先日は大臣が視察されたりしている。「はなふる」は面積が非常に広く、大災害が起こった場合は、防災性という重要性が非常に高くなると思います。国土交通省は、防災道の駅を全部で39駅指定していますが、全国的には100駅指定したいと言っており、北海道179市町村の中ではまだ数少なく、特にこの周辺には防災道の駅はない。指定されると防災備蓄倉庫や備蓄資材が整備され、市民にとっても避難者にとっても非常に安心の拠点になるかと思います。 観光まちづくりでいうと、人口が7万人いるがシティホテルがありません。懇親会などを開けるコンベンションホールがあるシティホテルがないことで、忘年会や新年会、交流会など、本来、地元で発生するニーズ、お金が外に落ちています。これだけ企業が立地しているので、交流会や懇親会が市内で賄えるような、コンベンションホールを持つシティホテルも誘致の検討施策に入らないのかなと思います。
	●部会長 それでは、次に基本目標5の産業・観光・まちづくり分野の目標についてご意見をいただきたいと思います。 目指すまちの姿や取り組みの方向性が出ていますが、優先順位も必要だと

素案審議	思います。第5期の計画での完成度はどれくらいあったのか気になります。課題に対する部分は入っていると思うのですが、そういった点も意見として挙げていただければと思います。 小さなことでもいいのでご意見をお願いします。
	●A委員 目指すまちの姿で、「ガーデンツーリズムにより、訪れる人や宿泊者でにぎわうまち」とありますが、宿泊施設がほとんどないので、誘致などが必要だと思います。 先ほども懇親会を開く場所がないという話が出ていましたが、恵庭では開催できる場所は限られます。ただ、ホテルで宴会場を作るとなると、経営するにあたっては、毎日のように宴会がなければ難しいということで、宴会施設を作るホテルを建てられないというような話を聞いています。
	●事務局 マスタープランと総合計画の整合性は取っていき、土地利用方針図も総合計画の冊子の中には出していきたいと考えています。 「はなふる」を防災拠点ということでお話がありました。「はなふる」には、緊急貯水槽を設置し、水の確保なども行っています。防災機能を全く有してないわけではなく、また、そばの車両センターには防災倉庫などもあり、防災についても考えてできた「はなふる」となっています。 シティホテルの誘致についてですが、札幌と千歳が近いので、誘致しても結局民業が成り立たないのであれば、公的な支援にも繋がっていくこともあるかと思います。一方で、公的な支援をしてでも民業を成り立たせるという考え方もあるかと思います。 第5期総合計画は、前回検証資料を出しましたが、それぞれ成果指標などを持ちながら、24の目標についてどうだったかと10年間での振り返りをしました。この10年で、ごみの焼却施設ができたり、「はなふる」道の駅がリニューアルしたり、様々な変化がありました。第5期期間中には焼却施設を建設し、全量埋め立てしないというようになったところは大きなことです。また、焼却施設と生ごみし尿処理場と下水終末処理場を一帯的な場所に建てて、焼却の熱を下水汚泥の加温に使ったり、生ごみし尿とそれを混ぜることでバイオガスの発電をして、バイオガスを民間に売ってバイオガス発電がされるなどに取り組み、令和3年度には国土交通大臣賞を受賞するなど、第5期総合計画の中でできたと考えているところでございます。

素案審議

●C委員

ガーデンツーリズムには、ガイドが必要ですが、今は無償ボランティアだけに頼っており、有償のボランティアがいません。どこの観光地に行ってもガイドには有償の人たちがいて、求めるニーズによって案内できています。観光施策を進めていくには、ガーデンだけではなく、盤尻も含めた歴史なども学んだ、ガイド養成が必要だと思います。

恵み野中央公園も改修工事が今後始まりますが「はなふる」も恵み野中央公園も公園ですが、そういったところを繋いでいき、公園自体の持つ特性、違いながらも魅力のある公園になってなるということが重要じゃないかと思っています。

恵み野中央公園は、これから改修工事という段階ですが、ただ市民だけが憩える場所となると、また数十年後には朽ちていくのではないかと、懸念しています。魅力ある公園にするにはどうしたらいいのかなと常々思っています。

恵庭は今、花のまちとして、だいぶ浸透してきていると思います。恵み野地区はやはりガーデニングのまち、花のまちと言われている拠点となる場所になっていると思います。

恵み野には神社がありません。神社に代わる何かそういったものがここにできないかということを考えています。イタリアはトレビの泉がありますが、恵み野泉ができて、そこで何かやると願いが叶うというような、そういったストーリーを作る。今まで積み重ねてきた花・緑・ガーデニングに加えて地域の人たちにとって、ここに来ると願いが叶う場所になって、それが浸透することによって、外部の人たちもここに来ると願いが叶う場所があるんだというような、そういうものができていかないかなと思っていました。

トレビの泉は、若手の建築家の人たちに、コンペを行ない、いいデザインを取り、今のあの形になったということです。コンペをして、お金を生み出すような公園になっていったら、観光にもつながり、そして地域に住む人たちの誇りにもなる、今までの歴史に積み重なったものができるのではないかと、そういうイメージも今持っています。

国交省のグリーンインフラ官民連携プラットフォームの委員もしているのですが、これからは公園を作るときは、グリーンインフラの視点は欠かせないと思います。先ほど「はなふる」の話をしましたが、当然グリーンインフラを意識した治水対策や生物多様性、防災など、そういったものも含めて、また、高齢化社会では、お年寄りにも配慮した公園作りがされ、当然子どもたちも一緒に使って、市民がいつも集えるような、そんな場所にしていくことは重要だと思います。

素案審議	また、スポーツの誘致と記載がありますが、子どもたちが夢を抱くような、そういったスポーツがあるのはいいなと思います。スター性のある人が、ここに来られるものという面では、スポーツの誘致は、ぜひ行ってもらいたいと思います。
	●事務局 恵み野中央公園の改修については、基本計画ができ、新たな公園のキーワードは、持続可能、恵み野地域を歩いて楽しめる回遊性と相乗効果、恵み野中央公園らしい魅力・特徴の創出、防災に活きる取組み、見る公園から体験する公園へ、生活と文化に根ざすといったものになっています。委員おっしゃったグリーンインフラ、地域が誇れる持続可能な公園作り、グリーン化による魅力ある空間創出といった形で進んでいるのかと思います。 ガーデンニングのガイドなど今は市民のボランティアでということですが、共生・生活環境専門部会でもお話が出て、比較的高齢の人たちは無償でも時間があるのでボランティアで動いていけるが、若い世代はやはりメリットがあるものでないとなかなか動かないとかっていう話もありました。今後そういったものについては、インセンティブというか、メリットがないと人も動いていかないという話があり、有償ボランティアも考える一つのテーマという話になっていました。 ただ、それでも市民の方々が参加し、成り立っているというのも、逆に恵庭の良さっていうところもあるのかなと考えながらも、ただ一方で感覚的には有償ボランティアも考えていかなければいけない時代に来てるのかなと思います。
	●B委員 企業誘致と目標にあります。最近学校から連携や協力の連絡があります。授業の中で学ぶことと、実際それを商店会と組んで実際に運営とかのアドバイスとかをしたり、夏祭りも一緒にできればと声をかけていただいたりしている。将来起業を考える学生さんとかが出て、恵み野でお店をやるとか、あと恵み野ではチャレンジショップのような店舗があるので、学生のチャレンジショップのようなものとかもできたらいいのではないかなと思っています。 昔は駐車場が多分想定されてないまちづくりだと思います。恵み野の花さんぽストリートは駐車帯ができて、出店する人が増えたと思います。 お店を辞めて更地になったところに、家やアパートができると、商店街の店が連続して繋がらなくなってしまうという心配もありましたが、駐車帯な

素案審議	どハード面の整備をすると、店舗付き住宅で美容室を始める事例もできました。 街の中心部の活気というのは、大型店には出せない街並みというか特色が出てくると思います。
	●部会長 個人のお店が集中するのがいいのか。恵み野は、以前大型スーパーがあって、衣・食・住すべてが取り揃って、車で行けて、ワンストップで買い物ができたが、それがいいのか。 相乗効果として出すには、核になるものが必要だと思います。商店街に駐車場が備わったドラッグストアやスーパーなど地域密着ができる店が核にあったりすると、より集客しやすくなると思います。行政で、こういう商店街を将来的につくり、この核はこのようなお店を置いて、集客し、お試し価格として3ヶ月家賃はこれぐらいでやってみませんか、などの取組みが考えられると思います。 恵庭は高速道路、国道36号線、JRの線路がありますが、3地区に横長の街に今なっていると思います。それを一つにするにはどうしたらいいのか。市道は、団地中央通りが恵み野から黄金まで伸びる道路らしいです。今、橋も道路もありますが、予定図の中には入っている。道路沿いに何ができるのか、この10年間で何をやっていったらいいのかなど、皆さんからご意見を出して、計画に入れていかなければ、最後は伝わらなかったということになりかねませんので、小さい意見でも発言していただければと思います。
	●A委員 恵庭に来た人に飲食店街がどこにあるのか、よく聞かれます。 栄恵町にはマンションが建ってきて、新しく店を開く人もなかなか出てこない。いずれなくなっていくのではないかと心配です。どこかに移して、屋台村のような感じを作るとかも考えられるのではないのでしょうか。 コンパクトなまちづくりでは、駅ごとにコンパクトなまちを作っていくのはいいですが、3つのまちにわかれているように感じます。そのまちの間をどうするのが気になります。 防災に関しては、先ほど出ていましたが「はなふる」は広い場所ですが、災害対応の段取りにはすごい時間がかかると思います。そうしたことから学校が避難場所になるのではないかと思います。 熊本や能登半島の地震では、水道管が破損して水に困りました。防災は震災で起きたことを取り入れながら、考えていかないといけないと思います。

素案審議	大切なのは井戸水で、各小・中学校に、災害時以外にも使える防災井戸がある、そんな防災のまち作りも必要なのかなと思います。 人手不足の面では、タクシーがいない。早急にライドシェアなど考えて行かなければ、飲食店にお客さんが来ないなど経済面に影響が出てくるのではないかと思います。 ●部会長 通過型のまちに今はなっていると思います。恵庭で泊まろうと思うような施設みたいなものがなければ、極論ですが恵庭に住みたいという人はそんなに出てこないのではないかと思います。基本目標にまちの魅力を生かしたとありますが、まちの魅力って何かを強調できるものがあるのでしょうか。カリンバ遺跡って何があるのと。 ●副部会長 カリンバ遺跡に、ちょっとしたポケットパークのようなものがあり、そこへ行ってスマホをかざせば歴史がわかるなどがあるといいと思う。休める場所があるだけでも違うと思います。 ●A委員 観光は、「はなふる」のほかに、観光するところが少ないのが課題。サッカーや野球が来るとかあれば違うと思う。市として観光地は、盤尻、恵庭溪谷と「はなふる」となるのでしょうか。 ●部会長 溪谷へバスが出ているとか、食事がとれるところがないと観光施設にはならないのではないかと思います。市民以外の人を呼ぶのが観光であって、来たお客さんが滞留して飲食や宿泊などお金を落とす、そういう流れにならないといけないと思います。コンセプトみたいな強い柱があれば、恵庭だったら、ここで買い物して、観光して、1泊してみようかとかというようなところまで、来る人のために、そういう施設を作ったらいいいのではないかと思います。 ●A委員 観光協会と恵庭市とがもっと協力する必要があると思います。
------	--

素案審議	●事務局 人手不足では、人材確保計画という形で3年ごとに見直しをかけて人材確保していくとなっています。ただ、外国人の労働力に頼っているところも多くなっています。外国人人口は1000人を超え、20代だけで見ると1割が外国人となっています。 恵庭のまちの魅力の一つは平坦なまちというところがあると思います。歩いて暮らせるというところが大きいポイントなのかなと思っています。 3つのまちに分かれているというご意見で、都市計画マスタープランの改定をし、今、西島松地区などの開発や工業団地の検討に入っています。防災で学校の活用というお話もありましたが、防災の拠点になりうるということで太陽光パネルをつける取り組みなどしていますが、水の関係の視点も必要なのかなと思いました。 栄恵町をはじめ、恵庭でお金を消費してもらう部分は、継続した課題になってきているのかなと思っています。 ●B委員 商店会と町内会で一緒にイベントをすることが多いのですが、警備会社に頼むと高額な費用がかかってしまうため、町内会に協力してもらっていますが、高齢化が課題です。これからもイベントを継続していくため、協力してくれる若い人たちも必要だと思います。 ●事務局 町内会の加入率は毎年1ポイントぐらい下がってきて令和6年2月に55%という状況になっています。 町内会に入ったメリット、繋がり作りというのは、共生・生活環境部会の中でもすごく大事なテーマとして話があり、繋がりを持たない、持ちたくないという人も中にはいます。人と人が繋がっていくような、自助・共助・公助の話があり、継続した課題として私達の方で捉えていかなくتهはいけないかなと思っています。 高齢化では、社会保障・人口問題研究所の推計では、少子高齢化はますます進んでいくという推計にはなっています。恵庭は、市街地拡大できる可能性があるというところの夢を描けています。この状況が好転していくという可能性はあるのかなと思っています。
------	--

素案審議	●A委員 昔の町内会活動は、自衛隊の方により活発でした。協力していけると活発化する可能性があるのではないかと思います。 ●C委員 恵み野の活動が活発なのは連携ができているのが理由と思っています。町内会は、本当に一生懸命やっていて、生きがいみたいなものも感じているのかと思います。 また、恵み野には恵み野商店街 100 年街並み協議会や美しい恵み野花のまちづくり推進協議会があり、地域で連携ができていると感じています。 地域のことを知って、子どもたちは地域の中で育ちます。そして、景観も綺麗になり、活発で素晴らしいと思うのは、地元の人たちが喜ぶお祭りを毎月のようにやっていることです。地域の人に喜んでもらえるまち作りをしているからこそ魅力があって、ほかの地域の人もそれを見たときに行きたい、この街に触れ合いたいと思う。観光も同じことじゃないかと思います。 大きい建物を作ったからといって、それが生かされるというものではなく、人がそこに行きたくなるような場所作りをしているからこそ、観光は生きてくるのではないかと思います。 恵庭を考えると、通過型と言って仕方ないし、それであってもいいのではないかと思います。恵庭らしいそういったまちづくりが必要だと思います。 ●事務局 本市にとって一番誇れるのが住みやすさだと思います。ガーデンシティの可能性をシティセールスプランの中でもうたっていて、関係人口は増やしていこうということでふるさと納税などに取り組んでいます。 ●部会長 恵庭市のふるさと納税いくらぐらいでしょうか。 また、メインはビールでしょうか。 ●事務局 約 26 億円です。 メインはビールで 7 割ほどとなっています。 ●部会長 それは恵庭らしさと言えるのでしょうか。
------	--

素案審議	●事務局 サッポロビール北海道工場が立地し、おんこ祭なども開催されるなど、様々な地域貢献をしていただいています。恵庭らしさであると考えています。 ●部会長 ビール以外の返礼品はどのようなものでしょうか。 ●事務局 冷凍ピザや、温熱パネルをはじめさまざまなものがあります。さらに、ふるさと納税の事業者として登録していただける事業者を増やしてっていきます。そこには基幹産業としての農産物もあります。 基本目標の6の先ほど話があった、恵庭・恵み野・島松駅を中心に都市機能充実をすることにより賑わいが創出されたような生活が提供できるまちというのは、これまで市民の方から色々意見が出てきて、それを踏まえて目指す姿や取り組みの方向性に設定しています。書きぶりがもう少し強めた方がいいのか、その辺について見ていただければと思います。 ●副部会長 恵庭市と北海道文教大学で連携協定を結んでいます。実施計画などで、固有名詞を入れて計画に乗るということは、包括協定先にとっては大きなことですので検討をお願いしたい。学校の定員充足することも恵庭市の活性化のために役に立つと思いますし、恵庭市の良さを感じて、恵庭に就職するなどつながればいいと思います。 現在も、市営住宅の目的外利用として学生が住むことができていますので、学生の力をもっとまちづくりに生かしていけると良いと思います。 ●事務局 ハッピーハロウィンや他のイベントなども、大学生がいないと成り立ちません。学生に来ていただいて、いろいろなことができていますということで本当に感謝しています。 ●C委員 恵庭の農業は多品種のものを作られています。京野菜がありますが、特別なかなと思ったらそうではなくて、京都で作られている野菜は京野菜というようです。恵庭も多品種生産なので、恵庭野菜というブランドを作って、
------	---

素案審議	そういう形で売り出してもいいのではないのかなと思います。 ●部会長 恵庭の魅力を、畑作の方から売り込むということですね。私もそれが正しいと思います。 「かのな」に行って入った瞬間、がっかりするのがお米。朝、10時に行ったら何もないのですよね。日本のお米の自給率は2038年で、100%をきると言われているのですが、恵庭市でもっとお米を作る農家さんの後ろだてになって、恵庭のお米を恵庭の全家庭が皆食べてるよとかってというような方向性を目指して後押ししてはどうでしょうか。また、農業法人は、雇用の促進による農業の担い手の確保につながっていくと思います。 恵庭のお米が美味しいという評判が立ち、それで米の部分で潤うことがあればいいのではないのでしょうか。また、ある程度何かに特化しないと、恵庭の農業の得意分野ってなんだろうとなると思います。恵庭はお米が美味しい、土地の特殊な野菜が美味しいというような方向に持っていけたらいいのではないかと思います。 ●事務局 農業振興計画でも、コンセプトとしては地域が支え合う魅力ある農業を目指してとなっており、時代的なものでは、スマート農業が推進され、また外国人が技能実習生として入っている状況にあります。また、後継者の課題、多様な担い手の育成と確保というものもあります。 ●部会長 後継者がいないところは休耕地になってしまいますよね。 ●事務局 休耕地にはならず、その部分借りるなどして、一戸あたりの面積が広がっています。恵庭に休耕地はほとんどないというように言われています。 ●部会長 休耕地がないということであれば、恵庭で、農業の中で特化した品目というのは、何なのでしょう。
------	---

素案審議	●C委員 恵庭では、多品種が作られています。帯広だったらじゃがいも、どこどこだったらお米とかとなりますが、恵庭の場合はいろいろなものがあるというのが特徴です。だからこそ、恵庭野菜みたいにしてしまっ、全部ブランドにしてしまえば、他とは違う魅力になると思います。 ●部会長 差別化として恵庭はそういった特殊な地場野菜があります。でも基幹となるものがないと相乗効果が起きてこないと思います。米を買いに来て、そして美味しい野菜があるのだと知ってもら。特殊な野菜だけを求めてくると、数が少なく品切れすると、それで終わってしまうと思います。基幹的なものが、例えば米とかジャガイモがあれば、それをメインに、野菜も買ってもら。次の時からそれを本命に買いに来るようなこともあると思います。本当にお客を呼べるものが1つでもあるといいのではないのでしょうか。 ●事務局 農業振興計画の資料の主要作物の作付面積資料では、水稻は、平成17年から令和元年で若干の減、畑作の内訳は、小麦と大豆が多くの割合を占めています。野菜は、馬鈴薯、カボチャ、人参、大根、キャベツ、その他の分類となっており、平成27年から大幅にその他が増えています。
閉会	●部会長 以上で第1回恵庭市総合計画審議会、産業・観光・まちづくり部会を終了いたします。長時間ありがとうございました。